

同志社のキリスト教主義、  
キリスト教主義教育と  
キリスト教文化センター



キリスト教文化センター所長  
横井 和彦

今春、石川 立前所長から所長職を渡されました。これまで、一信徒として、あるいは、キリスト教文化センター委員会委員・同幹事としてセンターとかかわってはいましたが、今後は、センターの教員・職員をはじめ、センター委員会委員の方々、諸活動を担ってくださっている方々とよりいっそう力を合わせて、センターの使命を担っていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

本学では、2014年度から、学長より諮問を受けた「同志社大学宗教教育に関するワーキンググループ」が立ち上げられ、さらに2015年度には、キリスト教文化センター委員会のもとに「キリスト教主義に関する正課外教育プログラム検討部会」が立ち上げられました。先日、それぞれ答申と検討結果が出されたところです。私は両方の議論に、メンバーとして加わりましたが、その際にキリスト教が建学の精神の柱の一つであることには異論はないものの、その理解については、学内でもさまざまであることを改めて痛感いたしました。センターでは、引き続きスタッフ一団力を合わせて、学内におけるキリスト教理解の深化に貢献していきたいと考えています。

昨年完成した同志社京田辺会堂の光館(HIKARI-KAN)では、現在、「新島襄と自然科学」のテーマで展示がされています。これは、同志社社史資料センターの協力によるものです。このように学内の他部署をはじめ、本学と同じく、新島が設立した同志社教会など、さまざまな機構とも協力を進めていきます。

お知らせ

○外国人留学生歓迎特別チャペル・アワー

英語によるチャペル・アワーです。留学生に限らず、どなたでも参加可能です。

日時：4月20日(水)13:30～14:15  
会場：神学館礼拝堂(神学館3階)  
奨励者：神学部教授 関谷 直人

○新町ウィーク チャペル・アワー

いつものチャペル・アワーを新町キャンパスでランチタイムに開催。

※今出川キャンパスでのチャペル・アワーは行いません。  
日時：5月17日(火)、5月18日(水)、5月20日(金)  
12:35～13:00(3日間すべて)  
会場：未定(決まり次第、HP・キリスト教文化センター  
掲示板のポスター等にてお知らせします。)

○チャペル・コンサート

「祈りのたて琴 -ハーブの演奏とお話-」  
奏楽者：アメリカ福音ルーテル教会宣教師 キャロル・サック氏  
日時：5月30日(月)14:55～16:25  
会場：同志社礼拝堂  
申し込み不要、入場無料

○Doshisha Spirit Week 2016 春

5月30日(月)～6月4日(土)

○安中・会津キャンプ ～Doshisha Spirit Tour～

9月7日(水)～9日(金) 実施予定  
(説明会・申込受付5月予定)

○朝の祈禱会

日時：4月11日(月)、5月9日(月)、6月6日(月)、  
7月4日(月)  
9:10～9:30

会場：京田辺校地 同志社京田辺会堂 光館  
(HIKARI-KAN) セミナー室  
今出川校地 キリスト教文化センター集会室  
(クラーク記念館1階)

\*今年度から時間が変更になり、両校地での開催となります。

○メディテーション・アワー

オルガンの響きとともに黙想の時をお過ごしください。

京田辺校地 4月7日(木)～7月27日(水)の  
月・水・木 12:30～13:00  
会場：同志社京田辺会堂

言館(KOTOBA-KAN) 礼拝堂  
今出川校地 4月7日(木)～7月27日(水)の  
月～木 12:30～13:00

会場：同志社礼拝堂/クラーク・チャペル

○チャプレンとの面談

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています。  
(教会のみならず学校、病院などで働きを担う牧師を  
チャプレンと呼びます。)

京田辺校地	火曜日 3 講時	三木	メイ
	木曜日 3 講時	越川	弘英
	金曜日 13:00～16:15	尾島	信之
今出川校地	火曜日 3 講時	越川	弘英
	水曜日 14:00～15:30	栗原	宏介
	木曜日 4 講時	三木	メイ

※ 越川先生、三木先生は上記の他、随時面談を受け付けます。

❖ チャペル・アワー案内

2016年4月1日

No.231

同志社大学  
キリスト教文化センター

京田辺  
0774-65-7370  
今出川  
075-251-3320

イースターのシンボル「ウサギ」



切り絵 中谷隆志

春学期チャペル・アワー統一テーマ

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。」  
(哀歌3章22節より)

キリスト教のキーワードという「愛」がいちばん最初に思い浮かぶかもしれません。「まあ、そうだろうな」とは思うのですが、世間一般であまりに濫用されすぎたせいか、愛はむしろ意味不明の言葉になり果てているように感じる時があります。最近、私がこだわっているのは「憐れみ」という言葉です。「神は憐れみ深い／慈しみ深い」といった表現は聖書の中に頻りに登場します。人生において私たちはいろいろな苦しみ・悲しみに出会いますが、「神は憐れみ深い」というのは、神が私たちと同じ目線に立ち、思いやりと想像力をもって私たちの苦しみ・悲しみを共有してくださるということだと思います。「神を信じる」というのは、そのような神の憐れみ深さを信じるということだと思います。そしてまたそれは、そのような神が、私たち人間に対しても「憐れみ深くあること」を望んでおられることを信じるということでもあるのです。

(キリスト教文化センター教授 越川 弘英)

◎チャペル・アワーは、どなたでも自由にご参加いただけるプログラムです。  
 ◎当日の詳細、奨励題等につきましては、ホームページや学内掲示板のポスターをご覧ください。

### 京田辺校地

月/日	奨励者
4/12	日本キリスト教団奈良教会牧師 栗原宏介
4/19	日本キリスト教団東神戸教会牧師 横山順一
4/26	日本キリスト教団千里聖愛教会牧師 川江友二
5/10	キリスト教文化センター助教 三木メイ
5/17	日本キリスト教団奈良教会牧師 栗原宏介
5/24	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下星志
5/31	日本キリスト教団東神戸教会牧師 横山順一

### 今出川校地

月/日	奨励者
4/12	キリスト教文化センター教授 越川弘英
4/19	総長 大谷實
4/26	神学部教授 小原克博
5/10	音楽礼拝(同志社学生聖歌隊) 社会学部教授 ※新町ウイーク 木原活信
5/17	日本キリスト教団泉北ニュータウン教会牧師 稲山聖修
5/24	日本キリスト教団尼崎教会牧師 山本有紀
5/31	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 山下星志

### 水曜チャペル・アワー

月/日	奨励者
4/13	キリスト教文化センター助教 三木メイ 逆去者追悼礼拝
4/20	学長 松岡敬 逆去者追悼礼拝
4/27	日本キリスト教団高槻南平台教会牧師 齋藤開
5/11	左京キリスト教教会牧師 古森敬子
5/18	日本キリスト教団久宝教会牧師 水谷憲
5/25	日本キリスト教団神戸多聞教会牧師 今井このみ
6/1	神学部嘱託講師 若林裕 Doshisha Spirit Week 2016春

### 水曜チャペル・アワー

月/日	奨励者
4/13	キリスト教文化センター所長 横井和彦 逆去者追悼礼拝
4/20	理事長 水谷誠 逆去者追悼礼拝
4/27	日本キリスト教団芦屋浜教会牧師 塚本潤一
5/11	同志社国際学院初等部・国際部チャペレン 石川真弓
5/18	社会学部准教授 ※新町ウイーク マーサ・メンセンディーク
5/25	日本キリスト教団八尾教会牧師 井上孝仁
6/1	同志社女子大学学長 加賀裕郎 Doshisha Spirit Week 2016春

### 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

月/日	奨励者
4/8	日本キリスト教団大和郡山教会牧師 尾島信之
4/15	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺圭一郎
4/22	キリスト教文化センター助教 三木メイ
5/6	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎道子
5/13	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 小笠原純
5/20	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺圭一郎
5/27	日本キリスト教団大和郡山教会牧師 尾島信之

### 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

月/日	奨励者
4/8	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月修治
4/15	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下星志
4/22	日本キリスト教団牧師 藤浪敦子
5/6	神学部教授 村上みか
5/13	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月修治
5/20	社会学部准教授 ※新町ウイーク ウリアム・ステイブリン
5/27	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下星志

## 『聖書と想像力』

——洗礼者ヨハネ斬首の伝承——  
 宮崎克裕

西洋では、聖書のなかの伝承が、中世から現代まで多くの芸術家たちを惹きつけ、彼らの想像力に重要な役割を演じてきたことは言を俟たない。なかでも特に洗礼者ヨハネの斬首(マルコによる福音書6章14-29節)の伝承は、斬首されたヨハネの頭部をヘロディアの娘サロメが携えている場面として造形され、ルネサンス・バロック期以降、ポツティチェリ、デューラー、ティツィアーノ、カラヴァッジョ等、多くの偉大な画家たちが好んで取り上げた画題である。この主題は、19世紀後半になると、世紀末の頹唐的雰囲気なかで、「宿命の女」の主題と融合し、特にフランスでは、象徴主義画家ギュスターヴ・モローによって繰り返し描かれることになるし、文学の領域でも、ハイネ、フローベール、パンヴィル、ラフォルグ、ワイルドなど、多くの詩人や小説家の想像力を刺激し、そこから数々の傑作が生み出されることになる。

フランス象徴派詩人ステファヌ・マラルメ(1842-1898)もまた、この主題を下敷きにした韻文詩を、青年期から繰り返し制作しようとして試みるが、56歳での突然の死により未完に終わっている。ところで、おびただしい数のその詩篇の草稿類から垣間見えてくる詩人の作品構成には、同時期の他の作家と比べ、きわめて特異で斬新なところがある。

まずマラルメは、「サロメ」の名を実母の名「エロディアード」(「ヘロディア」のフランス語表記)に置き換えることによって、ヘロド王の酒宴でダンスを踊る娘と、その褒美にヨハネの首をヘロド王に求めるよう娘にむける母とを融合し、新たな「エロディアード」像を造形している。

第二に、詩人は当初、詩篇「エロディアード」を「降霊術」(エロディアードの乳母による独白)、「舞台」(エロディアードと乳母との対話)、「聖ヨハネ頌歌」からなる三部構成としていたが、驚くべきことに、詩人の書簡によれば、第二部「舞台」で鏡に映る己の裸身を見つめながら独白するエロディアードが、生身の女ではなく、「美」の形象として寓喩化され、しかも、それは、己自身が「美」であることを見覚している自己意識的な「美」として構想されていたのである。さらに異様な点は、第三部「聖ヨハネ頌歌」で独自のヨハネの状況である。そこでは、斬首された直後の己の頭部が地面に落下していくその一瞬の間のヨハネの思考が、ヨハネ自身によって語られるのである。

おそらくマラルメは、「美」の観念そのものを詩篇として結晶化するために、「洗礼者ヨハネの死」の伝承からほかに遠い地点に達してしまっただけであろう。だが、それほどまで詩人の想像力を活性化させる「力」の源泉となったものもまた、聖書であったことは紛れもない事実である。西洋では中世以降、聖書という「パラダイム」が、芸術家たちの想像世界の構築において、どれほど重要な役割を演じてきたのだろうか。この当たり前の事実を痛感する今日この頃である。

(みやざき・かつひろ)グローバル地域文化学部助教

※今出川校地の5/17、5/18、5/20のチャペル・アワーは12時35分、13時に新町キャンパスで行います。